



斐山南小学校  
学校だより

学校教育目標:ともに高め合う きららの子

きらら

「地域に信頼  
され、地域とと  
もにある  
学校」を  
めざして

令和7年5月発行 第2号

## 正解のない問いを探究し、新たな価値を創造できる子供たちに

校長 土屋 貴俊

新年度となり1ヶ月が経過しました。ここまで子供たちは、新たな仲間とそれぞれの目標を達成するために努力する姿がたくさん見られています。さらに子供たち一人一人が自分の思いや考えを伝え合い、他者と折衝をつけながら協働し新しい価値を創造していけるよう支援していきます。

児童会役員の6年生にどんな学校にしたいのかを質問したところ、「みんなが笑顔でいられる学校にしたい。そのために、みんなが優しくなってほしい」という言葉が返ってきました。誰もが安心して笑顔でいられ、一人一人のよさを発揮できる学校を子供たちと共に目指します。今年の生活四目標のキーワードは、このような子供たちの思いを生かして「優しい言葉遣い」です。子供だけでなく教職員もより一層心がけていきます。これが学校や家庭だけでなく地域にも広がり、さらに誰もが安心して生活できる場が増えることを願っています。

今年の1年生を迎える会も、そんな思いが込められた素晴らしい会となりました。会の中でそれぞれの学年の児童から1年生へ「学校生活は楽しいですか」、「校歌は覚えましたか」等の質問をすると、その都度元気いっぱい「楽しいです。」「覚えました。」などの返答がありました。授業中いつも目を輝かせながら元気いっぱいに学習している姿が目に見えびました。

この迎える会を通して1年生は、学校には優しく頼りになる上級生がたくさんいてくれることに安心し、上級生は1年生が喜んでくれたことに自己有用感を感じ、みんなで力を合わせてやり遂げたことで達成感を味わうことができました。全校の子供たち一人一人が「きららの子」となれました。本会を終えて「よかった」「楽しかった」「成功した」だけで終わらずに、なぜ上手くできたのか、なぜみんなが幸せな気持ちになれたのかをふり返り、次の活動や学習につなげていきます。

「楽しい学校」、「笑顔になる学校」、「安心できる学校」とする手立てに正解はありません。今回子供たち一人一人が1年生のために何ができるのかを一生懸命考え協働することができたので笑顔がたくさん見られる会となりました。これからも多様な考えを認め、尊重し合いながら新しい価値を創造していける子供に育っていけるよう支援しています。

六月には、5年生が防災キャンプを行います。一番悲しいことは、子供やその周りの方々が災害で命を落とすことです。災害にどう備えていったらよいのかを子供や家庭地域の皆様と一緒に考えるきっかけとしていきます。ご支援ご協力をお願いいたします。

